中部様式

令和７年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
（及び地域公共交通計画の評価結果）　概要（全体）

# 小浜市地域公共交通会議
# （小浜市）

平成１９年７月１１日設置

令和４年６月　小浜市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和４年６月～令和９年３月）

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域公共交通計画に関する任意評価

## 小浜市の概要

▼面積：２３３．１㎢
▼人口：２７,１９３人（令和７年１２月１日現在）
▼公共交通：ＪＲ小浜線、西日本ＪＲバス若江線、地域コミュニティバス（毎日運行５路線と隔日運行６路線）、路線バス（名田庄線/地域幹線系統）

## 小浜市地域公共交通計画の基本方針

**まちを育み、暮らしを支える公共交通**

利用しやすい公共交通サービスをつくり、子どもや高齢者など移動手段を持たない人も、すべての人がまちとつながり、安心と賑わいを生み出すまちづくりを目指します。

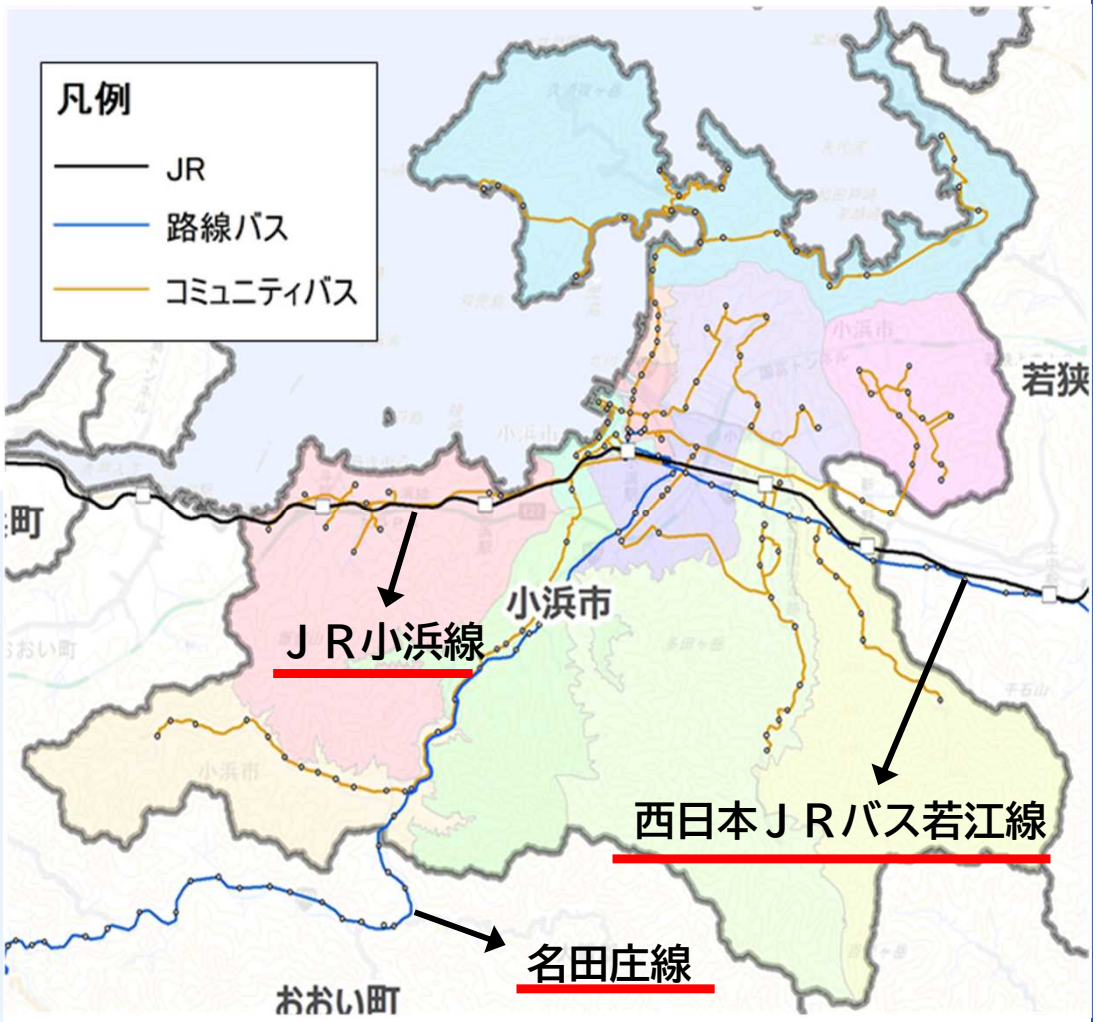
**基本方針1**
みんなで支え育む公共交通ネットワークの実現

**基本方針2**
日々のおでかけを支える公共交通サービスの提供

**基本方針3**
わかりやすく使いやすい公共交通環境の提供

**基本方針4**
まちの賑わいを生み出す移動サービスの創出

## 小浜市の公共交通ネットワーク



# 【基本方針２、４に関する取組】市街地循環バスの導入検討について

## ■背景

令和4年6月に小浜市公共交通計画を策定。本計画に基づき、同年、市街地循環バスの導入検討のための実証実験を行った。
令和5年より、実証実験の結果を踏まえ、検証や関係者へのヒアリング、意見交換等を進めてきた。その中で実証実験の実施期間をはじめ、運行経費や運行ルート、周知の手法等についての課題が得られた。一方、これらの課題を解決すれば、市街地における移動利便性の向上が図れるとの意見も多くあった。そのため、令和7年度に小浜駅を起点とした新たな市街地循環バスの実証実験を実施中。

### 【R4 実証概要】

**運行期間**
- 令和４年１１月（平日９：００～１４：４０）

**運行形態**
- 乗合バス形式（定時定路線）による運行

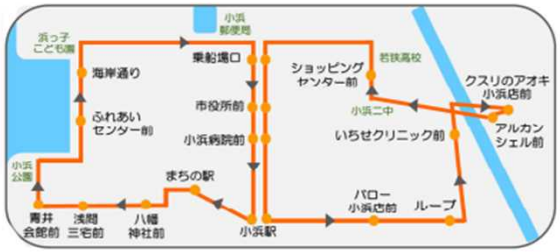
**料金**
- 無料

**対象者**
- どなたでも利用可能

**運行便数**
- １日７便（１便約４０分）

**停留所**
- 既存のあいあいバスのバス停　＋　新規の停留所

**運行車両**
- ハイエース１台（定員８名）




### 【R7 実証概要】

**運行期間**
- 令和７年１０月～令和８年２月（平日９：３０～１５：００）

**運行形態**
- 乗合バス形式（定時定路線）による運行

**料金**
- １００円

**対象者**
- どなたでも利用可能

**運行便数**
- １日８便（１便約３０分）

**停留所**
- 既存のあいあいバスのバス停　＋　新規の停留所

**運行車両**
- ハイエース１台（定員８名）
  またはジャンボタクシー（定員９名）

### ■今後のスケジュール

令和8年度上半期を目途にR7の実証運行結果を基に利用状況などの結果分析を行い、課題を整理したうえで、次期公共交通計画に反映させる予定。

### ●月別総利用者数

・1月の利用者数は、10月を若干下回ったものの、運行日1日あたりの利用者数はほぼ同じ状況であった。

・1便あたりの利用者数は1人未満であり、利用状況は低調である。

・利用者の大半は高齢者であり、一部一般の観光客の利用があった。

| | 利用者 | 運行日数 | 1日当たりの利用者数 |
|---|---|---|---|
| 10月 | 106人 | 19日 | 5.6人／日 |
| 11月 | 100人 | 18日 | 5.6人／日 |

### ●運行便別利用者数

・11月は、10月と比較して第5便の利用者が減少したものの、全体の傾向はほぼ同じ状況であった。

・第2便、第3便の利用者が多く午前中の外出が多い傾向にある。

・乗車ゼロの便については、10月、11月ともに約6割の便で利用がなかった。特に第8便(最終15:00-15:30)については、約9割の便で利用がなかった。

# 【基本方針２に関する取組】タクシー活用実証事業の実施について

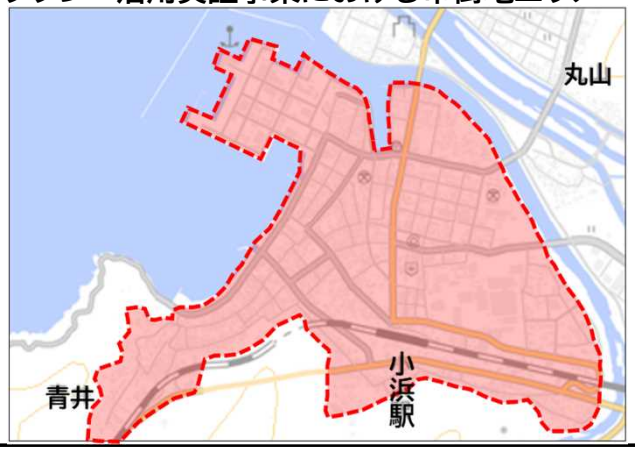
## ■目的

今後の小浜市における最適な交通施策を検討することを目的とし、市内の75歳以上の方（モニター250名）を対象に、居住地エリアおよび中心市街地エリアを目的地とした場合のタクシー利用にかかる費用について助成を行うものである。コミュニティバスやJR小浜線などの既存の公共交通を補完するとともに、移動ニーズにあった供給状況の実態を調査し、小浜市の公共交通の利便性および多様性、利用者に関する効果を検証する。

## ■事業内容

1. 期　間　令和7年11月中旬～2月27日（金）　※予定
2. 対象者　市内に居住する75歳以上の方　250名
3. モニター募集期間　随時募集
4. 利用について
   ①居住地エリアと市街地エリアのタクシー移動について500円で利用が可能。
   ②実証期間内に6回（片道）の利用が可能。
   ③タクシー利用は出発地から目的地までの移動に限る。
   ④市街地エリアに居住の方は、市街地エリア内の移動のみ利用が可能。

タクシー活用実証事業における市街地エリア




【中間実績】12月25日現在
■モニター登録者数/105名

| 地区名 | 人数 | 地区名 | 人数 | 地区名 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 小浜 | 13 | 国富 | 13 | 今富 | 16 |
| 雲浜 | 9 | 宮川 | 1 | 口名田 | 5 |
| 西津 | 14 | 松永 | 3 | 中名田 | 0 |
| 内外海 | 9 | 遠敷 | 9 | 加斗 | 13 |

【利用状況】

| 11月（11月14日～11月30日） | 12月（12月1日～12月25日） |
|---|---|
| 利用乗車回数／14回 | 利用乗車回数／112回 |
| 小浜市助成額／27,270円 | 小浜市助成額／210,310円 |

## ■今後の展望

精算管理システムを用いてタクシーと利用者のマッチング率などを分析するためのデータを収集し、実証結果を分析することで、実証データに基づいた新たな交通モード（タクシーなどの既存の移動手段を利用した交通形態）を検討していく。

## ■今後のスケジュール

令和8年度上半期を目途にR7の実証運行結果を基に利用状況などの結果分析を行い、課題を整理したうえで、次期公共交通計画に反映させる予定。

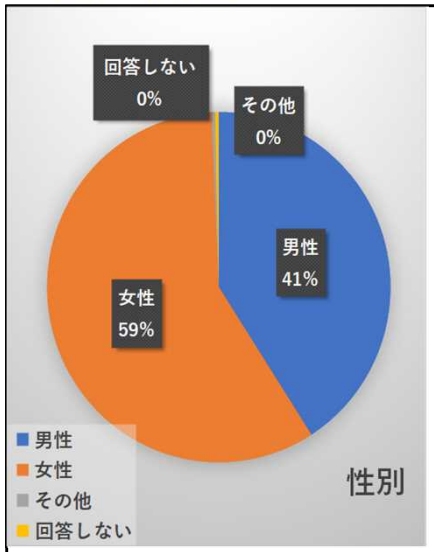
# 【基本方針１に関する取組】運転免許返納者の移動手段に関するアンケート調査（1/2）

## ■概要

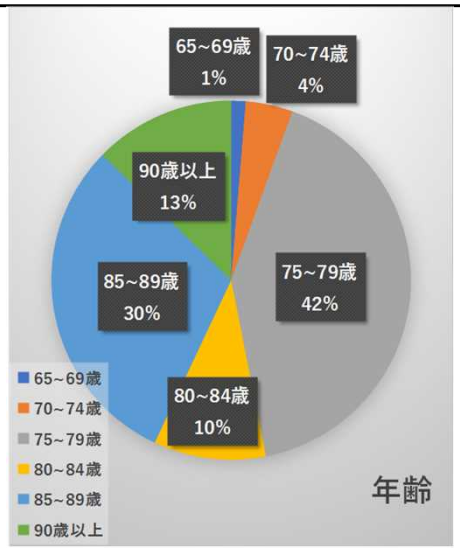
福井大学（工学部建築・都市環境工学科　地域・交通計画研究室（川本研究室））と連携し、自動車運転免許を返納された方々を対象として、移動の実態やその評価を理解することにより、今後の地域公共交通のあり方を検討し提案することを目的としてアンケート調査を実施。※対象者は平成28年～令和6年の免許返納者（小浜市民）のうち500名を無作為抽出によって決定。

## ■調査結果

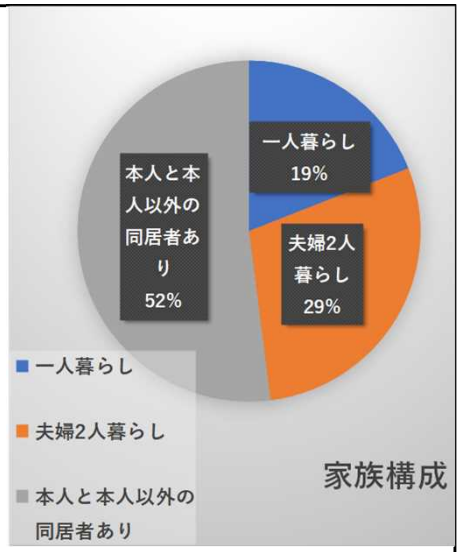
### 個人属性




合計：303




合計：307




合計：300

## ■アンケート結果の活用について

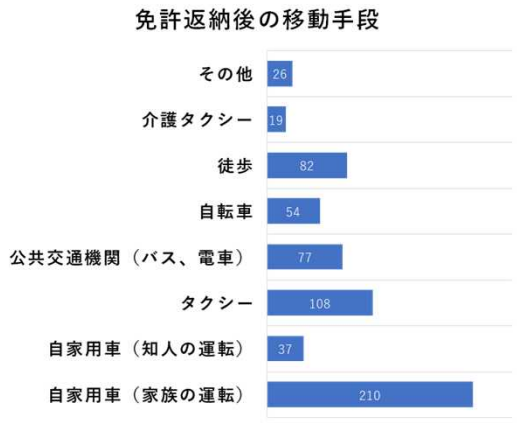
・結果については、免許返納者支援対策を行う部署に共有するとともに、連携して施策を実施していく。

・また、有効な周知方法について改めて検討するとともに、これまで取り組んできた、あいあいバスの１年間無料パスポートやタクシーチケットの交付などについても、社会や地域の状況等に応じて支援内容の見直しを行う予定。

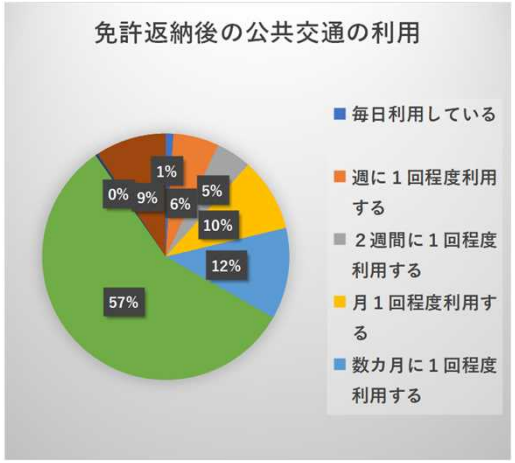
・上記制度などを利用した公共交通の利用を積極的にPRしていく。

# 【基本方針１に関する取組】運転免許返納者の移動手段に関するアンケート調査（2/2）

## 返納後の移動について

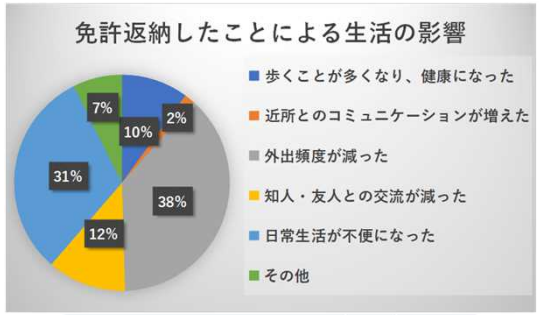



合計：613
注：Ma（複数選択可）



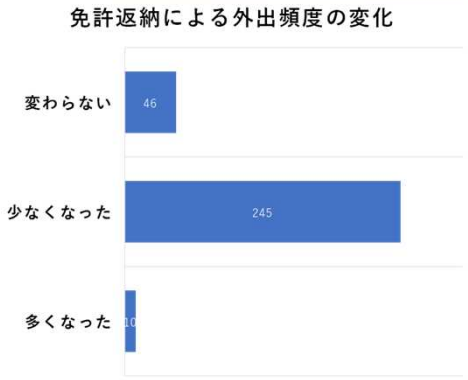

合計：301

## 生活全般における影響



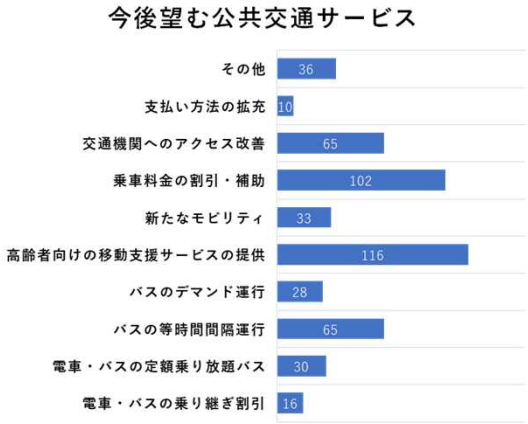

| 質問項目 | 人数 | 複数回答された方 |
|---|---|---|
| 近所とのコミュニケーションが増えた | 5 | 2 |
| 外出頻度が減った | 129 | 7 |
| 知人・友人との交流が減った | 40 | 18 |
| 日常生活が不便になった | 106 | 35 |

合計：339

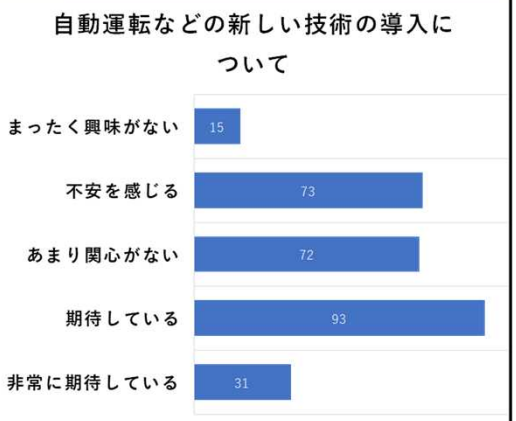



合計：301

## 今後の交通について




合計：501
注：Ma（複数選択可）




合計：284

## 調査結果について

・市内の免許返納者500名を対象にアンケート調査をおこなったところ、300を超える回答があり、年齢は、75～79歳が最も多く全体の42%、次いで85～89歳が30%という結果であった。

・免許返納のきっかけは、自らの意志で返納したと答えた方が最も多く、次いで家族からの助言、運転が不安になったとの回答が多かった。

・免許返納後の移動については、自家用車(家族の運転)が全体の約35%を占める結果であった。次いでタクシー利用という結果であった。

・今後の公共交通サービスで望むことは、高齢者向けの移動支援サービスの提供および乗車料金の割引・補助で、それぞれ全体の約20%を占める結果となった。

・生活全般における影響として「少なくなった」と答えた方が全体の約80%を占めている。

・本市が行っている「高齢免許返納者」制度について、知っていると答えた方は93%の方が知らないという結果であった。

## 【基本方針１に関する取組】公共交通機関利用促進事業の実施、モビリティマネジメントの展開

| | 助成内容 | 対象者 | 助成額 | R4 年度 | R5 年度 | R6 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 生活路線バス高校生等通学定期乗車券購入助成金 | 市内に居住する高校生等を養育する保護者 | 購入額の５０％（※1） | 985,110 円 | 1,175,190 円 | 1,470,330 円 |
| | | | | 84 件 | 94 件 | 103 件 |
| 2（※3） | JR小浜線高校生等通学定期乗車券購入助成金 | 市内に居住する高校生等を養育する保護者 | 購入額の１５％（※2） | 921,580 円 | 1,260,740 円 | 1,301,770 円 |
| | | | | 183 件 | 228 件 | 233 件 |
| 3（※3） | JR小浜線団体利用助成金 | ・市内に居住する方<br>・市内に通勤・通学・通院する者 | 団体割引後の２０％<br>上限：片道 400 円／人 | 144,770 円 | 151,030 円 | 126,830 円 |
| | | | | 97 件、2203 人 | 71 件、1,595 人 | 53 件、 1,202 人 |
| 4 | 小学生乗車マナー訓練事業補助金 | 市内小学校 | 運賃の全額 | 126,650 円 | 177,520 円 | 260,730 円 |
| | | | | 5 校、687 人 | 8 校、740 人 | 9 校、853 人 |
| 5 | JR小浜線小浜駅前無料駐車場の提供 | ・定期乗車券の購入者<br>・往復乗車券の購入者 | 駅前市営駐車場料金の１００％<br>※往復乗車券購入者については 16h/台まで | 116,000 円 | 145,100 円 | 145,100 円 |
| | | | | 定期 43 月分<br>往復 335 件 | 定期 54 月分<br>往復 429 件 | 定期 54 月分<br>往復 429 件 |
| 6 | 運転免許自主返納支援事業 | 自主的に有効期間内の全ての運転免許を返納する満 65 歳以上の市民 | あいあいバス乗車１年間無料 ＋ ﾀｸｼｰﾁｹｯﾄ１万円分またはﾊﾞｽ回数券１万円分 | 720,000 円 | 700,500 円 | 805,000 円 |
| | | | | ﾀｸｼｰ 85 件、ﾊﾞｽ 9 件 | ﾀｸｼｰ 113 件、ﾊﾞｽ 9 件 | ﾀｸｼｰ 105 件、ﾊﾞｽ 22 件 |
| 7（※3） | JR小浜線高齢者運賃助成金<br>R4 年 4 月～ | 市内に居住する満 65 歳以上の高齢者 | 購入額の２０％ | 19,020 円 | 21,400 円 | 22,510 円 |
| | | | | 14 件 | 20 件 | 24 件 |
| 8（※3） | ＪＲ小浜線子どもとお出かけ助成金<br>R4 年 4 月～ | 市内に居住する親子（子どもは中学生以下に限る。） | 購入額の８０％ | 24,660 円 | 67,430 円 | 49,590 円 |
| | | | | 21 件 | 42 件 | 32 件 |
| 9 | 西日本 JR バス若江線回数券購入助成<br>R4 年 10 月～R6 年 3 月 | ・市内に居住する方<br>・市内の団体 | 購入額の３０％ | 86,790 円 | 102,830 円 | 66,320 円 |
| | | | | 21 件 | 36 件 | 28 件 |
| 10 | ＪＲ小浜線学生帰省助成金 | ・県大小浜キャンパス生<br>・市外に居住する学生 | 運賃の８０％ | — | 5,000 円 | 4,740 円 |
| | | | | — | 5 件 | 4 件 |
| 11 | 路線バス利用者向け駅前駐車場利用助成金 | 若江線および名田庄線を利用する者 | 駅前駐車場の１５時間分の料金 | — | 3,800 円 | 1,800 円 |
| | | | | — | 11 件 | 6 件 |

(※1)ひとり親家庭医療費助成受給世帯または児童扶養手当受給世帯ひとり親世帯は、購入額から、1,000円/月を差し引いた金額
(※2)ひとり親家庭医療費助成受給世帯または児童扶養手当受給世帯ひとり親世帯は、購入額の80%　　(※3)おばませんサポーターの場合、助成率を2%上乗せ

# 3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察



| 評価指標 | 策定時 | 目標値 | 達成状況 | | | | | 考察 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | |
| 【指標1】<br>市内の主要な鉄道駅の乗車人員 | 488 千人<br>（年間） | 513 千人<br>（年間） | 455千人 | 452千人 | — | — | — | 【未達成】<br>新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用者は大幅に減少した。コロナ禍以降の乗車人員は、ほぼ横ばいで推移している。 |
| 【指標2】<br>あいあいバス利用者数 | 83,632 人<br>（年間） | 現状維持<br>（年間） | 72,657人 | 81,386人 | 74,717人 | 45,052人<br>（R6.10現在） | — | 【未達成】<br>利用のほとんどは、学生または高齢者であり、路線によっては、コロナ禍以降、増加傾向にある。アンケート結果や実証運行結果を踏まえて見直しを検討する。 |
| 【指標3】<br>モビリティ・マネジメントに関するイベント開催件数 | 25 件<br>（年間） | 30 件<br>（年間） | 15件 | 22件 | 27件 | 14件<br>（R6.11現在） | — | 【達成】R6<br>小学生乗車マナー訓練補助金については、コロナ禍以降、先生等の口コミなどもあり、利用件数が増加傾向にある。 |
| 【指標4】<br>公共交通を利用したお出かけの増加 | 80.6% | 75% | — | — | — | — | — | 計画最終年次におけるアンケート調査を実施予定。 |
| 【指標5】<br>公共交通の認知度・満足度の向上 | 9.4% | 15% | — | — | — | — | — | 計画最終年次におけるアンケート調査を実施予定。 |
| 【指標6】<br>あいあいバスの認知度 | 34.7% | 40% | — | — | — | — | — | 計画最終年次におけるアンケート調査を実施予定。 |
| 【指標7】<br>施設と連携したイベントや臨時バス等の開催件数 | 24 件<br>（年間） | 30 件<br>（年間） | 10件 | 9件 | 11件 | — | — | 【未達成】<br>・観光列車のおもてなしや家族で参加できる高校生発案のイベントを実施した。<br>・イベント開催に合わせた、臨時バス等の運行について、関係者と調整のうえ実施し、公共交通の利用促進を図る。 |
| 【指標8】<br>小浜駅の乗車人員 | 304 千人<br>（年間） | 320 千人<br>（年間） | 284千人 | 279千人 | — | — | — | 【未達成】<br>コロナ禍以降の乗車人員は、ほぼ横ばいで推移している。高校生等の通学定期助成の件数は年々増加傾向にある。 |

# 4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針　の作成



## ■自己評価から得られた課題

### ①目標の達成状況に関する課題

- コロナ禍以降、一部バス路線については、回復基調であるが、JR小浜線の利用やコミュニティバスの利用について、ほぼ横ばいで推移している。

定着している利用促進策は継続し、次期計画策定に向け、新たな利用促進策とともに周知方法等も再検討する必要がある

### ②公共交通ネットワークに関する課題

- 学生や高齢者が利用の大半を占めている。
- 路線やダイヤ等の見直しの必要性も感じるが、通学、買い物、通院利用などの生活路線であることから、どのように維持していくかが重要である。

実証実験やアンケート調査結果を踏まえ、次期計画策定に向け、本市に最適な交通形態を検討する。

### ③公共交通の維持に関する課題

- 運転手不足や高齢化。
- 燃料高騰や修繕費増加に伴う運行経費（公費負担）の増加。
- 持続的な「運転手」と「財源」の確保が課題。

・小浜線、路線バスを基軸とした既存の交通体系を維持するとともに、新たな輸送形態についても検討する。

## ■今後の取組方針

**【指標1：市内の主要な鉄道駅の乗車人員】**

**【指標2：あいあいバス利用者数】【指標8：小浜駅の乗車人員】**

- コミュティバスの運行形態見直し
- 定期券の購入助成などの利用促進事業の実施
  （R8年度に制度を大幅に見直す予定）
- 利用しやすい待合環境の充実
- 安心安全に利用できる乗り場等の環境・サービスの提供
- 分かりやすい公共交通情報の発信
- 県や沿線自治体、運輸支局など関係者との連携
- 乗り継ぎしやすいダイヤの設定と周知

**【指標3：モビリティ・マネジメントに関するイベント開催件数】**

**【指標7：施設と連携したイベントや臨時バス等の開催件数】**

- モビリティ・マネジメントの展開
- JR小浜線観光列車・イベント列車等の運行
- 市内施設や市内で開催される各種イベントとの連携

**【指標4：公共交通を利用したお出かけの増加】**

**【指標5：公共交通の認知度・満足度の向上】**

**【指標6：あいあいバスの認知度】**

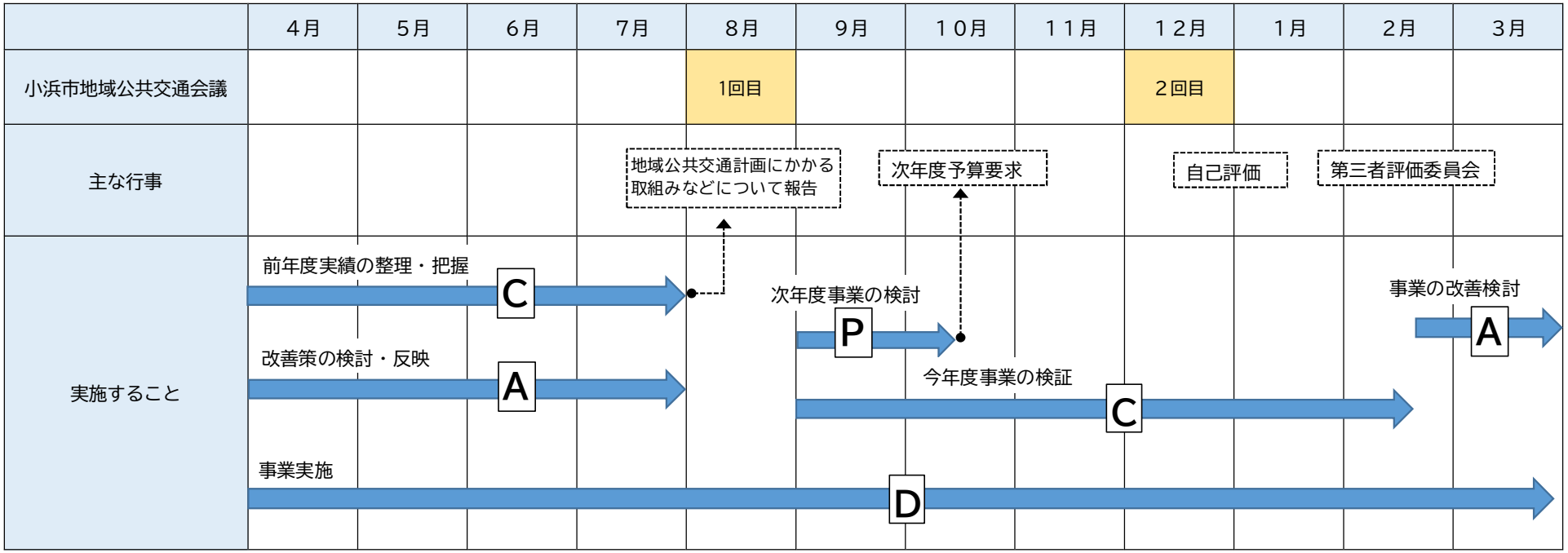
- 市街地循環バスの導入検討
- キャッシュレス化の推進
- 高齢者の運転免許自主返納者への支援
- 多様なニーズ、嗜好への対応、MaaSや自動運転など新技術の調査、研究
- 居住地を細かく回る新たな移動サービスの導入検討

# 5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

| 年度 | 二次評価結果 | 事業評価結果の反映状況<br>（具体的対応内容） | 今後の対応方針 |
|---|---|---|---|
| 前回 | | | |
| | | | |
| | | | |
| 前々回 | | | |
| | | | |
| | | | |

※直近２年間で二次評価を受けたことはありません。

## ■年間単位の進捗管理、評価スケジュール




## ■交通会議の実施状況

令和6年度

・第1回会議(R6.7.4)
　主な議題:コミュニティバスの運行形態の見直しについて

・第2回会議(R7.3.26)
　主な議題:R7公共交通施策について
　　免許返納者への移動手段に関するアンケート調査結果について

令和7年度

・第1回会議(R7.8.5)
　主な議題:コミュニティバスの運行形態の見直しについて

・第2回会議(R7.12.25)
　主な議題:R7実証事業報告(市街地循環バス実証事業、タクシー活用実証事業)
　　健康管理センター線の停留所および路線の変更について

## ＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

小浜市地域公共交通計画の評価結果（令和４年７月～令和８年３月）

| 目標 | 目標を達成するための取組 | 調査方法 | 達成状況・分析 | 評価・次年度に向けた課題や取組 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 市内の主要な鉄道駅の年間乗車人員<br>488 千人（令和元年度）→513 千人（令和 8 年度） | ・定期券の購入助成などの利用促進事業の実施<br>・分かりやすい公共交通情報の発信 | 福井県統計年鑑より計測 | ・未達成（R5 実績：452 千人）<br>・新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用者は大幅に減少した。コロナ禍以降の乗車人員は、ほぼ横ばいで推移している。 | ・引き続き、周知活動を行い、利用促進を図るとともに、利用促進策についても、利用者が増えるよう適宜見直していく。 | |
| あいあいバス年間利用者数<br>83,632 人（令和元年度）→現状維持（令和 8 年度） | ・定期券の購入助成などの利用促進事業の実施<br>・分かりやすい公共交通情報の発信 | 交通事業者の有するデータを用いて計測 | ・未達成（R6 実績：74,717 人）<br>・利用のほとんどは、学生または高齢者であり、路線によっては、コロナ禍以降、増加傾向にある。今後も状況の変化を注視する。 | ・引き続き、周知活動を行うとともに、バスを利用しやすい待合環境の整備なども実施し、利用拡大に努める。 | |
| モビリティ・マネジメントに関するイベント開催件数（年間）<br>25 件（令和元年度）→30 件（令和 8 年度） | ・モビリティ・マネジメントの展開<br>・JR 小浜線観光列車・イベント列車等の運行 | 取組件数を毎年計測 | ・達成（R6 実績：27 件）<br>・小学生乗車マナー訓練補助金については、コロナ禍以降、市内小学校の先生等の口コミなどもあり、利用件数が増加傾向にある。 | ・公共交通利用のきっかけになるような施策を継続して実施する。（小学生マナー訓練補助金、出前講座、美化活動） | |
| 公共交通を利用したお出かけの増加<br>80.6%（令和 3 年度）→75%（令和 8 年度） | － | － | － | － | 計画最終年次におけるアンケート調査を実施予定 |
| 公共交通の認知度・満足度の向上<br>9.4%（令和 3 年度）→15%（令和 8 年度） | － | － | － | － | 計画最終年次におけるアンケート調査を実施予定 |
| あいあいバスの認知度<br>34.7%（令和 3 年度）→40%（令和 8 年度） | － | － | － | － | 計画最終年次におけるアンケート調査を実施予定 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 施設と連携したイベントや臨時バス等の開催件数（年間）<br><br>24 件（令和元年度）→30 件（令和 8 年度） | ・市内施設や市内で開催される各種イベントとの連携<br><br>・JR 小浜線観光列車・イベント列車等の運行 | 取組件数および交通事業者の有するデータを用いて計測 | ・未達成（R6 年度：11 件）<br><br>・観光列車のおもてなしや家族で参加できる高校生発案のイベントを実施した。 | ・公共交通に興味をもってもらえるようなイベントを企画、実施する。 | |
| 小浜駅の年間乗車人員<br><br>304 千人（令和元年度）→320 千人（令和 8 年度） | ・定期券の購入助成などの利用促進事業の実施<br><br>・利用しやすい待合環境の充実<br><br>・分かりやすい公共交通情報の発信 | 福井県統計年鑑より計測 | ・未達成（R5 年度実績：279 千人）<br><br>・コロナ禍以降の乗車人員は、ほぼ横ばいで推移している。高校生等の通学定期助成の件数は年々増加傾向にある。 | ・引き続き、周知活動を行い、利用促進を図るとともに、利用促進策についても、利用者が増えるように適宜見直していく。<br><br>・路線バスなどについて、乗り継ぎしやすいダイヤ設定を行う。 | |